

- ⑦ 生産資材対策
- ③ JAグループをあげた地域担い手支援
 - (1) 地域・担い手支援体制の整備
 - (2) 地域・担い手支援機能の強化
- ④ 「地域活性化」への貢献
 - (1) 生活支援機能の充実
 - (2) 支所・支店活動の充実
 - (3) 食農教育の展開および地産地消の推進
- ⑤ 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立
 - (1) 正・准組合員のメンバーシップの強化
 - (2) 准組合員の「農」に基づくメンバーシップの強化
 - (3) 地域に根差した協同組合運動者としての人づくり
- ⑥ 自己改革の実践を支える経営基盤の強化
 - (1) 持続可能なJA経営基盤の確立・強化
 - (2) 経営資源の最大限の活用に向けたJA合併等の推進

- ⑦ 「食」「農」「協同組合」にかかる県民理解の醸成
 - (1) 組合員の意思結集による農政運動の展開
 - (2) 県民理解の醸成に向けた広報活動の強化
- ⑧ 県域組織による支援機能の強化
 - (1) 経済事業
 - (2) 信用事業
 - (3) 共済事業
 - (4) 地域・担い手サポートセンター
- ⑨ 自己改革の着実な実践と情報発信
 - 総合事業による一体的な協同活動の取り組み

JA（農協）は、組合員が出資・運営し、自らが必要とする事業の利用を目的とする組織です。正組合員である農業者の営農と生活を支える総合事業（営農・購買・信用・共済など）を展開するとともに、准組合員である地域住民の生活に必要とされるサービスなどの提供を行っています。

こうした正・准組合員を対象とした総合事業により、効果的かつ効率的な事業運営、質の高いサービスの提供を実現し、農業振興、地域振興、農業・農村の多面的機能の発揮などに重要な役割を發揮してきました。

人口減少や超高齢化社会、生産基盤の急速な脆弱（ぜいじゃく）化など厳しい環境下で、JAが引き続きこうした役割を發揮するためには、これからもJAが総合事業を営み、農業者や地域住民が一体となった協同活動への取り組みが不可欠になります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。



写真右) 第28回JA山形県大会の閉会の挨拶を行うJA金山柴田義正組合長(山形市の山形テルサで)
写真左) 組合員と共に農業と地域になくてはならないJAをめざしてゆく必要があると力を込めるJA山形中央会の長澤豊会長

向こう3年間の取り組み方針決まる

第28回JA山形県大会 JAグループ山形

JAグループ山形は昨年11月5日に第28回JA山形県大会を開催し、今後3年間の取り組み方針を決めました。様々な実践を支えるため、JAの経営基盤を磐石にし、「危機の突破をはかり」、「農業生産の拡大」、「地域活性化」の基本目標を実現する取り組みをさらに強化してゆきます。

理念の実現と創造的自己改革

JAグループの使命は、農業の発展とともに、組合員や地域の暮らしを守ることです。そのために行う事業は、農業分野だけでなく、信用・共済・購買など幅が広く、また、互いに支え合いながら展開されています。支え合いや助け合いの理念は、組合員の生産と生活の向上を目的とする協同組合という組織形態に表れています。この助け合いの姿は、平成28年に「協同組合の思想と実践」としてユネスコの無形文化遺産に登録され、世界的な評価を得ています。

社会の私たちは、人口減少や少子高齢化などにより変わってゆくとしていますが、JAグループは、助け合いの理念を胸に、地域

の特性や課題に応じて自らの方法（創造的自己改革）で目標に挑んでいます。

3つの危機を突破し基本目標実現へ

JAグループは今、人口減少や高齢化などによる「農業・農村の危機」、組織・経営基盤の弱体化といった「JAの危機」、世界の潮流と逆行する「協同組合の危機」の3つの危機に直面しています。これらの危機を突破し、農業と地域になくてはならないJAをめざすため、前回3年前の第27回JA山形県大会で決議した創造的自己改革の実践に引き続き取り組み、「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」、「地域活性化」の基本目標実現をはかる取り組みをより強化します。

第28回JA山形県大会の概要

1 JAグループがめざす姿

- ① 持続可能な農業の実現
- ② 総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、豊かでくらしやすい地域社会の実現への貢献
- ③ 食と農を基軸に地域に根ざす協同組合としての役割発揮

2 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現

- (1) めざす地域農業の姿
- (2) 農業経営基盤対策
- (3) 安全・安心確保対策
- (4) 水田農業対策
- (5) 生産・販売対策
- (6) 販路拡大および6次産業化対策

交通安全願い町へカーブミラー4基贈る

JA共済連山形とJA金山は昨年10月25日、交通安全に役立ててもらおうと、カーブミラー4基を金山町に寄贈しました。この取り組みは地域活動の一環として昭和48年（1973年）から実施。今回で累計185基となりました。

JA金山の柴田義正組合長と同管主一 共済部長、JA共済連山形原本部佐藤正弘最上地区担当部長が役場を訪れ、鈴木洋金山町長へ目録とカーブミラーのレプリカを手渡しました。

これからも安全・安心のため共済事業を展開し地域貢献活動を通して地域との絆を強めてゆく考えです。



カーブミラーのレプリカと目録を鈴木町長へ手渡す柴田組合長ら

つぎ立てモチ振る舞う

JA金山の収穫感謝祭が昨年11月8日、同中央倉庫で開かれ、来場した町民らと今年の実りに感謝しました。

待ちかねの恒例行事で、つぎ立てのモチや揚げソバ、湯豆腐、新米のおにぎりなど、すべて金山産が原材料の産物を使用しました。

来場者に振る舞いました。認定こども園めぐたまの園児が招待され、キネとウズを使った昔ながらの餅つきに挑戦し会場を盛り上げました。



KANEYAMA NEWS

落花花生

金山産「落花花生」産地化へ手応え

金山町は、産学官連携による6カ年計画で山形市の豆菓子メーカー「でん六」と山形大東北創生研究所と協定を結び、落花花生の試験栽培を進めています。1年目となる昨年は初収穫を行い、産地化へ手応えをつかんでいます。

高温・大雨など影響少なく品質良好

初 年度は農事組合法人「いずえむ」など6法人・2個人が約50㍏で試験栽培に取り組みました。品種は「ナカテユタカ」で茨城県から種子を取り寄せ、5月に播種。10月15日、16日の両日行われた収穫では心配された高温や大雨などの影響も少なく、1株から平均約60〜80粒の実が付き品質も良好でした。さや付きで10㍏当たり約300㍏以上の収量とみえています。

町では新たな転作作物として有望な落花花生を重点振興作物に指定しています。日照時間の少ない中山間地、寒冷地でも実をつけることが実証され、用途のすそ野も広い落花花生栽培に期待が高まっています。

落 花生は、力作業などの必要がなく手間もあまり掛からず、高齢者や女性でも栽培が可能な品目と言われています。

用途のすそ野広く有望



落花花生の収穫作業（H30.10.15 農事組合法人「いずえむ」の畑）

常備薬は、自主防災

「クミマイ家庭薬」で安心を

農協のくすりとして組合員の皆様に親しまれている「クミマイ家庭薬」は、JAグループの保健活動として昭和21年に「農家組合員の健康づくりを支える」ことを願い創業しました。昭和26年に農業組織の配置販売方式開始による生産メーカーの指定を受け、以降、配置薬（置き薬）方式による家庭薬の開発、製造、普及に取り組んでいるJAグループの薬屋さんです。

配薬員の皆さんは、昭和21年に設置された「家庭薬専任職員養成所」で医薬品の知識など一貫した教育を受け、以降、農家組合員の健康をサポートする業務にあたっています。

相手の立場・身になって対応

現 在、金山町を担当されているのが清水信也さん（55歳）です。配置員歴約20年の清水さんは、基本春と秋の年2回金山町内をまわっています。一日約20件のお宅を訪問されているそうですが、利用者の皆さんとは親しい間柄になっています。

清水さんが常に心掛けていることは「相手の立場、身になって対応すること」だそうです。「お変わりありませんか？」「足りないお薬ありませんか？」「足りないお薬ありませんか？」など、相手の話をよく聞いて、会話を通して必要な薬を補充されています。

利用者との会話に信頼感

清 水さんの配置員の仕事に昨年11月20日、同行する機会をいただきました。十日町の柴田絹子さん（63歳）宅では、絹子さんを「しばちゃん」と話しかける清水さんに、絹子さんは「とても気さくで話しやすい。電話注文する機会も多いです」と、帰り際手作りの干し柿をくださっていました。

続いて訪問したのは七日町の高橋次子さん（77歳）宅。「何でも聞きやすくいるんなことを知っている。話しやすいので安心です」と次子さん。高校球児だった清水さんが部屋に飾ってある高校野球のパネル写真を見て、次子さんの孫さんの話題にも盛り上がりました。同行してみても、利用者との信頼関係の強さをあらためて実感できました。

JA事業と運動信頼構築に奮闘

配 置員の仕事は農家組合員、利用者の皆さんの健康をサポート



「入浴剤も愛用しています」と柴田さんご家族



高橋さんに葛根湯の説明を行う清水さん

KANEYAMA NEWS

親睦グラウンド・ゴルフ大会 たっぷり ゆっくり楽しむ

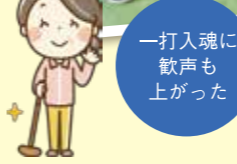
JA金山年金友の会主催の「第12回親睦グラウンド・ゴルフ大会」が昨年11月8日、9日、東根市屋内多目的コートで開かれました。参加した会員45人が一泊二日の日程で競技を楽しみ、温泉旅館でリフレッシュしてきました。

気 軽に楽しめるGゴルフをたっぷりと、宿泊は温泉旅館でゆっくり楽しむ人気のイベントです。競技は男女個人オープン戦で特別ルールを適用。男女各1位に今回のJAバンク山形県農協年金友の会グラウンド・ゴルフ大会出場資格を与

える独自特典も設定。狙いを定めた一打に歓声が上がりました。県大会出場権を獲得したのは男性1位の伊藤他人男さん（上台）、女性1位の柿崎文子さん（十日町）です。



同 会の西田健治会長（80）は「会員の親睦や健康増進、新規会員の拡大にむけて今後も積極的に活動を行ってゆくと、2月に金山で真冬の大会も企画しているのぜひ参加してほしい」と話しています。



一打入魂に歓声も上がった

するクミマイ家庭薬を普及すること、これらを通じてJA事業と連動することなどです。保健活動から始まった家庭薬の配置運動を今後も継続し広めてゆきたい、「昨年は最上管内でも自然災害が発生し大きな被害を受けた地域がある。そんな時、家庭薬は災害時の助けになる。言わば家庭薬は自主的な防災の一つの役割を果たす『常備薬イコール自主防災』でもあるんです」と清水さんは強調されました。

身近な協同活動で生活・営農の安定を

家 庭薬は身近な常備薬であると同時に、災害時の防災機能の面も担う家庭になくなくてはならないもの一つ

であると思います。ただ、有って当たり前、いざ使いたい時に無くて困る観が多少なりともあるかも知れません。清水さんたち配置員の方々は、各ご家庭へ定期的に訪問され十分会話をし、必要なものを適宜お届けしています。地道に業務に励まれ、個々の健康管理を支えていらいっしやる協同活動の原点的な仕事ではないでしょうか。信頼関係に基づく配置活動は体の薬でもあり心の薬でもあるように思えます。

組合員としてご利用者の皆さん、これからもクミマイ家庭薬をよろしくお願い申し上げます。



魚座 (2/19~3/20)

【全体運】 今まで付き合ったことのないタイプと知り合える期間。飲み会には意欲的に参加して、趣味の集まりにも注目を

【健康運】 疲れやすい暗示。早めのケアを心掛けて 【幸運を呼ぶ食べ物】 納豆



水瓶座 (1/20~2/18)

【全体運】 何かと迷いが生まれやすいもよう。1人で悩まず、信頼できる相手に相談してみよう。気晴らしには音楽鑑賞が最適

【健康運】 つい食べ過ぎてしまう気配。節制が必要 【幸運を呼ぶ食べ物】 サワラ



山羊座 (12/22~1/19)

【全体運】 自分に自信が生まれそう。大胆にリーダーシップを発揮しよう。また、未体験の世界に飛び込むのも大賛成

【健康運】 評判の健康法が体質にぴったり合うかも 【幸運を呼ぶ食べ物】 京菜



射手座 (11/23~12/21)

【全体運】 プライベートの充実に力を入れると、満足感を得られます。特に早起きがグッド

【健康運】 規則正しい生活を。興味を持っていた趣味や習い事を始めるのも正解